

残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(135号)
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号
TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp
振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一
●代表／阿部 一 ●副代表／菊池せい子

信仰：あなたの宝は何？どこに？

- 新緑の美しさを楽しむ間もなく、草木は日毎に緑が濃くなり5月半ばなのに気温が上昇、30°Cを越えた地方があったと報じられ、今から今年の夏が思いやられるような気分です。
- 皆さまにはお変わりございませんか？ 私達も皆さまの祈りに支えられて、年次総会を終えて信仰の「成熟を目指して」主の教えに忠実に歩もうと2019年度の歩みを続けています。
- IT技術の驚く程速い進歩によって、人の集まるどこでも相手と会話を直に楽しむのではなく、誰かに命じられてでもいるかのように、ピコピコとスマートホンを打ち続いている光景が当たり前になってきています。
- 多くの人達が心の渴きを覚え、自分の存在と価値を確認するために、何かに繋がっていないと不安なので、必死に他人との関わりを求めています。その心の渴きの叫びに真っ正面から向き合うことをせずに、それをスマートフォンに代償させているような気がします。
- 生活のリズムが益々速くなり、毎日が追い立てられているような現代において、今こそ、勇気を持ってその走り回っている自らの歩みをとめて、立ち止って、本当にこれが自分が求めている人生なのか、その目的や意義から静かに省みる時を持つ重要性を再確認し、実行する必要があります。
- キリストは、「あなたの宝のあるところにあなたの心もある」(マタイ6/12)と語られました。何が、その人にとって最も大切な宝なのかを見れば、その人の人格が分かります。
- それに続いて、キリストはそれをどこに蓄えるかと問われました。それは人間の視点か神の視点なのかを問うているのです。別の言い方をすれば、同じことを行うにしても、それが自己の栄誉のためか、神の栄光のためかということです。
- 神は、この世で自己が求めた栄誉を手にした者は天では神の栄誉を受けられないと明言されています。隠れたところを見ておられる神は、私達の心を見られているのです。
- それを自覚し、今は約束の栄化に向って「聖化の道」を歩んでいる私達には、この世の君が巧妙な形で私達の自尊心をくすぐり、その結果、古き自分が顔を出し、自己中に誘われるというように、私たちは信仰と不信仰の間を揺れ動き、躊躇しては神の導きの声を聞き直すという生活の連続です。
- そんな時、神は私達にその選択が神と隣人を優先させたものかどうかを聖霊を通して問われます。私たちの神私たちがどのような状況にあろうとも、常に私たちと共に歩んで下さっています。そのことを思い起こし、祈りを通して神の声を聞く時、感謝と喜びと平安をもたらし、歩むべき道を照らしそれを示して下さい。
- この月も「第一のものを第一に」出来るように祈りをもって歩みたいと思います。

先月の多くの恵みから

- ① 妹さんの二平幸子さんを天に送られたばかりの安曇野シャカイナ・クリスチャン・フェローシップの小林和子さんがお母様の末永さんと5/14~21にわたり被災地石巻を訪問して下さいました。16日に市内と女川を視察、17日には震災後励ましてこられた末永秀雄さんと夕食を共にしてのお交わり、19日には礼拝をお二人とご一緒にでき、祈りと主にある親しい交わりを持つことができました。
- ② 5/10に、待ちこがれた気仙沼の阿部克衛夫妻との交わりを時間を調整して、両者の中間地である志津川のホテル觀洋で持つことができました。互いが同じ無牧の小さな家の教会と



して祈り合い、励まし合うとても嬉しい時間を過ごすことができました。

- ③ 5/4に七尾市の畠河和恵ご家族が訪問下さいました。子どもさんも中学3年生と1年生と大きき成長し、姉妹も御主人が始めた新しい仕事（歯科技工）の助け手として元気に取り組んでおられる様子に感謝でした。
- ④ 3月から、毎週水曜日の午後、特養に入所されている佐藤 隆さんを訪問して、祈り、賛美、聖書の話と楽しいおしゃべりの時間を持たせて頂いています。主の救いの意味とその必要が理解出来るようにお祈り下さい。
- ⑤ 5/19に、元仮設入居者の末永秀雄さんより今年も小銭を貯めたものと共に多額の献金を捧げていただきました。また、安曇野のSCFの群よりも沢山の献金を頂きました。
- ⑥ 5/13に石川 満師より励ましの手紙と教会の月報を送って頂きました。先生のご健康のためにお祈り下さい。また、ウィクリフに鳥羽季義師よりハガキで励まされています。
- ⑦ 5/18に高木充子さんよりお菓子；5/24に宮越久雄さんよりタマネギ、4/30新井勝太さんより菓子、その他、皆さまからの献金、メイル、電話、手紙、祈りの励ましを頂き、感謝です。

■ 今月も以下の課題を祈って頂けるようにお願いします

- ① 今野かつ子さん／新井勝太・李恵子夫妻／鈴木手以師の治療のため。
- ② 石巻地区の各教会の働きのため。地域より求道者が起これるよう。
- ③ 大平英秀さんのために
- ④ 九州・西日本・北海道の被災者のため。
- ⑤ 次年度の3.11東日本大震災追悼記念会の準備と石巻ミニストリーネットワークの働きのために。

群の定期集会

・礼拝 (毎週日曜日)	10:00-11:30
・祈り会 (毎週水曜日)	10:00-11:30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10:30-12:00
・ほっと・Time (第3火曜日)	10:30-12:00
・コーラス「花」 (第2,4木曜日)	13:30-15:00
・楽しい手芸 (第2,4月曜日)	10:00-12:00
・学習支援 (地域の子どもの要望に応えて)	

信仰を詠う

6月 復活の主

蘇りおわせるイエス涙して
ぬら
積まれしわが劫 濡し給えり
はだか
裸木が地を突き刺して冬に立つ
クロス
天与なりしか十字架映せる
窓外を透きて淡雪礼拝の
おしえ
負ひ目を赦す宣教に溶ける



阿部 八重子

4月、今年も山城町教会でイースターをご一緒にさせて戴きました。何と幸いなことでしょう。
一わたし歴りです、命です、わたしを信じる者は死んで生きるので
ヨハネ11-25

2019/4月末～2019/5月末までの教会活動の情報と地区教会活動との関わり



アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」=主の山に備え在りの

10年を振り返って

いつも期待しながら

石巻祈りの家副代表 菊池せい子

今日、2018年1月31日の夜、皆既月食の月を眺めながら、自然現象の不思議さをつくづく思わされました。この現象を科学的には解明できるでしょうが、誰がこの現象を造ったのかは解明できないのでは・・・世には、私たちの頭では考えることが出来ないことが沢山あります。物事の1つ1つを思う時、神の導き、神の介入と思わされることも度々あります。こ間の森谷先生の説教にあったように神の摂理なんでしょうか。小さな「石巻祈りの家教会」が存在するのも、あるいはその摂理の一つかも・・・この水明北地区に創立されて10年が過ぎました。私たちは、なぜ前の教会を出ることになったのでしょうか。10年間、いろんなことを学んできて、次のことが分かりました。

- 1つ。人間の奢り高ぶりの傲慢さ。
- 1つ。周りの者を全て思うように支配したいと思う欲望。

- 1つ。富と権力に対する欲望。

ともすると、人は自分を正当化してそのような思いは持っていないと言います。しかし、人の心は目には見えません。果たして、そうでしょうか。このような思いは、その人の行動、態度、生き方に表れてくるのではないでしょうか。特に指導者がこのような人だと多くの人が躊躇します。考えに考えた末、私は新しい教会に希望を託したのです。

私達の教会は、無牧です。会員10名にも満たない小さな教会です。しかし、神さまはこの小さな教会を様々なことに用いて下さいました。とても感謝なことです。詳しくは月報「シャーアル」に毎月事細かに載せてあります。

この教会での私の役割は、副代表として毎月第4聖日に司会をすることです。とても感謝なことですが、能力不足の私にとっては、時には重荷となることもありました。果たして、神さまに喜ばれる司会をしているだろうか。自分の思いが先行していないだろうか。会員のみんなが礼拝に集中できている

だろうか。心をひとつにして「アーメン」と言い得ているだろうか。いつもいつも私にとては問われる課題でした。

そしてもう1つの役割が、教会会計です。いくら数字好きといっても、70代になり毎月末の集計で数字とにらめっこ。些細な所で間違えて、数時間もかかったりすると会計は無理なのではとガッカリすることもしばしばです。会員が少ないので役割が重なり、大変なこともあります。

そうそう、もう1つ「楽しい手芸」の指導もありましたっけ！

この10年間で、特に大きな経験は3.11の大震災でした。私たちの心に大きな恐怖、不安が植え付けられました。世界中の教会、支援団体、クリスチヤンだけでなく多くの一般の人からの温かい支援物資、献金で乗り越えることが出来ました。この小さな祈りの家が、教会のなかったこの地に震災前に発足したのは、神がそのために私たちを用いて主の御名を崇めさせようとされたからだと体験的に教えられました。

非常に困難な経験でしたが、多くの人の助けと祈りの支えによって神にある計り知れない恵みにアーメジングの連続でした。特に、海外からクリスチヤン・ボランティアの奉仕には頭が下がりました。世界共通の被災者への愛を持って助け合うことの尊さを彼らに働いているイエス様の思いを通して教えられました。

ボランティアに来られた牧師や兄姉が苛酷な労働の中でも主を知る者としての良き証しをして下さり、また、各聖日にはこの小さな家の教会にも国内外の多くのボランティアが礼拝に出席し、牧師先生方は礼拝メッセージをとりついで下さり、その後で主に兄姉として楽しい交わりを通して励まして頂きました。

そして、また他方、この喜びの10年間にちは、会員の中で教会を去った人や重い病気を患って亡くなった人、家族を失った人などの多くの悲しみも経験して来ました。

小さな群ですが、神が立てて下さった教会として自分の家族、友人をはじめ多くの方々が心を開いて福音を受け入れてくれるよう祈って活動を続けたいと思います。神は、今後この教会をどのような方向に導かれるでしょうか。期待しながら前に進みたいと思います。

あなたがたの思い煩いを、いつさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださいからです。

ペテロ第一の手紙5/7

